

武者修行プログラム 報告書

所属; メディシナルケミストリー

名前; 小川藍子

派遣先; National Cancer of Institute

派遣期間 2009 年 10 月 31 日から 12 月 6 日まで

2009 年 10 月 31 日から 12 月 6 日まで、アメリカ、メリーランド州のフレデリックとベセスダにある National Institutes of Health (NIH) の 1 つである National Cancer Institute (NCI) にて海外研修を行ってきました。

NIH は、1887 年に設立されたアメリカで最も古い医学研究所であり、27 の研究機関およびセンター施設からなっています。NIH を構成する機関の 1 つである NCI は、世界で最も大きながん研究機関として、抗がん剤の開発に大きく寄与しています。NCI は、メインキャンパスであるベセスダだけでなく、フレデリックにもキャンパスがあります。私は、そのフレデリックキャンパスで 1 カ月間の研修を行いました。

私がお世話になった研究室は、NCI-Frederick Center for Cancer Research, Laboratory of Medicinal Chemistry, Section of Bioorganic Medicinal Chemistry の Terrence R Burke, Jr 博士の研究室です。研究室のメンバーは、私を含めて 7 人で、ドイツや韓国、中国など世界中から集まっていました。私は、インターンという立場でお世話になったのですが、私以外のメンバーは全員ポスドクでした。私の他に学生がいない環境でしたが、分からない事は一から教えてくれ、年齢や国籍などを超越した関係が築けたと思います。



研究室のメンバーと

Burke 博士の研究室では、細胞内のシグナル伝達や代謝反応を調節する因子の 1 つであるチロシンのリン酸化・脱リン酸化に着目した研究を行っています。

私は、研修期間中にペスト菌の脱リン酸化酵素である YopH の阻害剤の開発に携わりました。YopH の阻害剤候補の 1 つである化合物を合成しました。私は、所属研究室でも有機化学合成を行っていますが、異なる実験手法が多々あり、今後の自身の研究に役立つことを学ぶことができました。

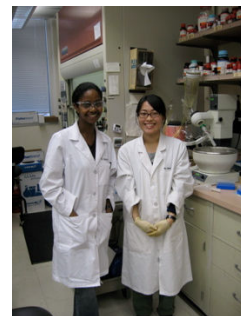
私は、この 1 カ月間の研修を通じて、有機合成の手法だけではなく、様々な国の人と本当の意味での「コミュニケーション」を図るために必要なことを学びました。英語は、単なるツールでしかなく、本当に大事なことは自分が相手に何を伝えたいのかを自分で伝えようとする気持ちだと感じました。たとえ、誤った英語だとしても自分で伝えようとする姿勢を示せば、相手も親身になって私の話に耳を傾けてくれました。



研究室のメンバーMedhanit と



Thanks Giving Party



実験室で

また、研究室のメンバーの研究に対する情熱は私に刺激を与えてくれました。彼らは、自分が分からないことを知りたいという好奇心と病気で苦しんでいる人を救いたいという気持ちの 2 つが研究に対するモチベーションでした。それが明確であるからこそ、素晴らしい研究ができるのだと感じました。

最後になりましたが、今回の海外研修の機会を下さった生材研人材養成プログラム実行委員の先生方にこの場をかりて、厚く御礼申し上げます。アメリカでの経験を、十分に活かせるよう頑張ります。